

令和4年度 第2回学校運営協議会議事録

日時：令和4年10月8（土）14:00～16:00

場所：大阪府立茨木高等学校 視聴覚教室

出席者：【 委 員 】 添田晴雄、岩井八郎、柴田仁、富永陽子

【校長・事務局】 高江洲良昌、山脇和美、本管克江、森登紀子、藪麻智子

1. 校長挨拶

2. 議事

- ① 本年度の各取組みについて（中間報告）
- ② スクールミッション（案）について
- ③ 教科書選定結果について
- ④ その他
- ⑤ 次回学校運営協議会日程

<校長挨拶>

- ・前回の学校運営協議会以降、ここまでの主な学校行事（「久米島」への宿泊野外行事、体育祭、オータムセミナー）等について報告。

<議事>

①本年度の各取組みについて（中間報告）

- ・本年度のここまでの取組みをまとめた資料をもとに、事務局より説明。

「高大連携事業」

コロナ禍において、中止やオンラインでの実施を余儀なくされていた取組みも、ようやく対面で実施できるもの、現地で実施できるものが増えてきた。本校独自の取組みである「学問発見講座」「京都大学研究室訪問」「東京スタディツアー」についても、大学や卒業生の方々のご支援・ご協力のもと、感染予防等の工夫を講じ、実施することができた。生徒の参加数、また参加した生徒の様子を見ていると、生徒たちが対面で実施できる取組みを待ち望んでいることを実感した。

「グローバル」に視点を置いた取組み

今年度も12月に第1学年の生徒全員を対象にした「茨木ブラザーズ&シスターズプログラム」を予定しているが、この行事は今年もリモートで実施する予定である。

現在2名の長期留学生を第2学年で受入れており、日々の学校生活の中で、お互いを理解し、交流を深めようとしている。

「英語イメージンプログラム」についても、希望者を対象に、12月下旬、対面での実施を予定している。

今回、後期始業式の日、「学びの報告会」を実施したところ、生徒たちは「報告」の内容に大いに感銘を受けた様子であった。「学びをタテにつなげる」ことができたのではないかと期待している。

委員：コロナ禍が収まらない中で、うまく生徒を支えていただいていると思う。やはり、対面での取組みは大切であることがわかる。

委員：「京都大学研究室訪問」の事後アンケート等を見ていて、訪問先として、いわゆる「文系」の研究室が少ないようだが、何か理由があるのか。

事務局：新型コロナの対応が、学部ごとに多少の違いがあり、「文系」の研究室は、外部との交流について制限がある場合が多く、訪問が難しいという事情があった。

委員：今年度、体育祭も含めて、行事がほぼ例年通りの形式で実施され、生徒たちからすると、「高校って、こんなに楽しかったのか。」と実感しているようである。

委員：体育祭については代々、生徒は相当な労力を注いでやっている。昔、体育祭で人生を棒に振った、などと言っていた同級生もいたが、ある程度年齢を重ねてくると、結局そんなことを言っていた人が一番強い、ということが見えてくるものである。

委員：その経験が、社会に出てからのリーダーシップや人間関係にも生かしているということなのだろう。

②スクールミッション（案）について

- ・校長から、「スクールミッション」について、大阪府教育庁から示された資料をもとに説明し、本校のスクールミッション（案）を提示。

校長：これまで本校で取り組んできたものをベースにして、「校訓」「伝統的に掲げてきた理念」「めざす学校像」「教育理念」「教育方針」等からまとめたものであり、みなさまからのご意見を賜りたい。

*「スクールミッション(案)」について承認。

③教科書選定結果について

- ・令和5年度使用教科書について、「選定・採択一覧表」及び「選定理由一覧表」を資料としながら説明。

委員：「情報」について、共通テストに向けての対策等はどう考えているのか。

事務局：本校では、「情報」については「IBARAMA」の中で包括的に学ぶことになっている。

その中で、共通テストにも十分対応できるように、と考えている。

委員：現在、大学では入学してから、データの処理やプログラミングを教えている。入試科目として「情報」が入ることで、高校段階で、データの処理やプログラミングの知識・技能を身につけた学生が入学してくることに大いに期待している。

事務局：資料でご紹介した教科書の実物を、どうぞ手に取ってごらんください。

④その他 特になし

⑤次回学校運営協議会の日程

第3回学校運営協議会 令和5年2月18日（土） 14：00～